



箕面市長 倉田哲郎より ごあいさつ

昨年の8月、みなさんの支援をいただき市長に就任させていただきました。この11ヶ月間、市民のみなさんの応援、叱咤激励を受けながら、懸命に走り続けてなんとか乗り切ることができたというのが率直な実感です。心から感謝を申し上げます。

今回のまちづくりニュース“市民のチカラ”で紹介されているとおり、いくつかの実績を積み重ねることもできたのではないかと思っていますが、引き続き平成21年度においても、スピード感を持って前進していけるよう全力で取り組み、前例にとらわれず新しい発想でチャレンジしてまいります。

voice voice voice voice voice voice voice voice voice voice 市民の皆さんから寄せられた **voice voice voice voice voice voice voice voice**

子どもたちの世代にツケをまわさない! とても当たり前のこと

昨年12月に出された緊急プラン(素案)。「いったいどういうこと?」と思っていたところ、ある地域の会議で倉田哲郎市長が説明をしている場面に遭遇しました。

市長に就任してすぐに財政試算をすると、今後5年間で273億円の不足が判明したこと。前市長は、表面的な数字を見せて「黒字だ」と言っていましたが、実際には大赤字が隠れていたわけです。この多額の赤字を解消し、収支バランスを正常化するための計画が緊急プラン(素案)。大きな目標額なので、市のサービス削減や公共施設の統廃合も含む非常に厳しいものです。でも「素案」なので、これから市民の意見を聞いて、修正しながら実行していくとのことでした。

倉田哲郎市長は言いました。「家計が苦しい場合どうしますか? 節約か、貯金を崩すか、借金か、の3つしかないですよね…」「行政サービスを削減することは、理由がどうあれ批判を浴びます。それでも僕は子ども

声

たちに借金を負わせるような選択はしたくない」と。

ナットクしました。我が家も住宅ローンはありますが、あくまで自分で払える範囲。言われてみればとても当たり前のこと。ただし、しっかりと情報提供をしながら改革を続けてほしいと思います。(坊島 T.K)

箕面に引っ越したい… という友人が増えましたヨ

箕面に生まれ育った40歳です。豊中育ちの妻は、結婚当初「箕面なんてパツとしない田舎ヨ」と箕面には無関心。とくに最近の3、4年は「ごみ有料化は白紙じゃないの?」などと不満が多く、箕面人の私は肩身の狭い毎日でした。

ところが倉田哲郎さんが市長に就任されてからは「今度の市長さんは若いけど、実行力があるつて評判ヨ」と180度の変わりよう。近頃は、妻の友人から「箕面は元気そうで引っ越したいわ」という声が聞かれ、誇らしく嬉しい限りです。倉田哲郎市長には、もっともっと箕面を元気づけてもらいたいです。(栗生新家 K.S)

V Voices

※みな様方の投稿をお待ちしています。送付先 Fax 727-4326

例えば、4月には市役所の組織改革を実施しましたが、箕面に移り住む人を増やしていくため、箕面市のよさを開拓し、全国にどんどんPRする部署として「箕面営業課」を置きました。これは全国でも珍しい組織です。また、民間企業経験者の職員採用や、民間企業との人事交流も実施しています。公務員職場と民間企業とでは、組織風土が異なり、馴染むところも馴染まないところもあるでしょう。しかし、よいところをいかに取り込んでいけるかが大事だと思います。いわゆる「市役所らしくない、全国に誇れる組織風土の変革」につなげていきます。

これらは取り組みの一端ですが、「子育てしやすさ日本一」「安心・支えあい最優先」「緑・住みやすさ最先端」を実現するため、市民のみなさんとともに邁進してまいりますので、よろしくお願ひいたします。



箕面市長倉田哲郎 まちづくりニュース

“市民のチカラ!”

箕面の明日をつくる会 Fax 727-4326

2009年7月発行

/ス/ピ/-/ド/感/を/も/っ/て/

新しい発想で停滞を打破!!

昨年の夏、暑い暑い選挙戦の末、私たちのまち“箕面”に全国最年少の倉田哲郎市長が誕生しました。市長就任後、その行動力と柔軟な発想で矢継ぎ早に新たな施策を展開。選挙で公約していた“乳幼児の医療費助成対象の拡大”や“福祉バスと路線バスの連携・一体化”に向けた協議会の設立などを、着実に実行してきました。

また、市長就任時に山すそ部で進んでいた開発を強いリーダーシップで中止に導き、商工会議所やNPOと連携した“ゆずともみじの里・みのおプロジェクト”を主導。民間経験者の採用、人事交流の実現、“箕面営業課の設置”など、この11ヶ月間の取り組みには枚挙の暇がありません。こうした変化はマスコミでも大きく取り上げられており、全国に“箕面”が発信されています。

いよいよ本格始動!!

4月からは倉田哲郎市長による初めての予算によって市政が動き出しています。大変厳しい財政状況にもかかわらず6年ぶりに経常収支を黒字にするなど大きく改善されており、“堅実な財政運営”をめざす倉田哲郎市長の卓越した手腕が發揮されています。

箕面市に「営業課」
産経新聞 08.11.13

DV恐れ別居被害者に
産経新聞 09.02.19

箕面市 6年ぶり黒字
産経新聞 09.04.25

わんわんパト発足
朝日新聞 08.11.08

警察と消防 年末へタッグ
産経新聞 08.12.01

素顔のままで、
発信中。

35歳の日誌－箕面市長 倉田哲郎ブログ

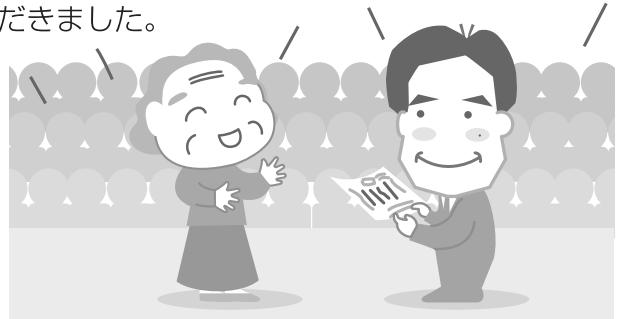
<http://blog.kurata.tv/>

箕面の未来に向けて挑戦し続ける
倉田哲郎市長の行動の軌跡を綴ったブログです。

高齢者の皆さんには安心を！

長寿をみんなでお祝い！
がんばる高齢者を応援！

これまで敬老会が各地で開催されてきましたが、倉田哲郎市長は、さらに長寿をみんなで喜ぶ気持ちを大切に、地域で活躍する元気な高齢者をたたえる「高齢者表彰制度」をスタートしました。また、市議会とタッグを組んで、老人クラブ連合会の健康づくり運動を応援するため、地域ごとの高齢者の健康づくり教室の予算を、新たに6月の市議会で決定いただきました。



また高齢者や障害者が、安心して街を楽しみ、暮らしを楽しめる環境をつくるために、強力にバリアフリーを進めています。新年度は、牧落駅のエレベータ設置や、長年の課題だった市民会館（グリーンホール）のエレベータ設置にゴーサインを出しました！

公立病院の成功モデルを“箕面市立病院”で！

「市立病院は、暮らしの安心を支える重要拠点。どんなに市の財政が厳しくても、市立病院はキッチリ存在し続けなければならない!!」…そう語る倉田哲郎市長は「だからこそ厳しい姿勢で病院経営に臨むんだ」と言います。

これまで「毎年9億円の赤字補填」という不安定な病院経営…ところが、新年度にはこの赤字を2億円にまで大幅圧縮。“市民に愛される安定経営の市立病院”をめざして、倉田哲郎市長の挑戦がスタートしています。

緑を守ろう！ 緑を育てよう！

新たな「山なみ景観規制」と (仮称)みどりファンド創設の導入

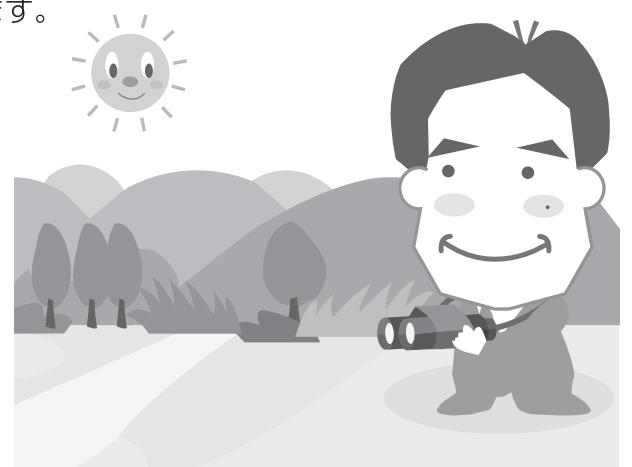
箕面のまちの一番の魅力は、なんといっても「みどり」。みなさん、そう思いませんか？

〔強力なリーダーシップで2つの開発を中止へ〕

倉田哲郎市長は就任直後、すでに進行していた「新稻地区の墓地開発」と「新御堂筋突き当たり山麓での老人ホーム建設」に強く異を唱え、議会とも協力しながら、強力なリーダーシップで2つの開発計画をストップしました。（※新稻の墓地開発は昨年10月に開発者が正式に申請取り下げ。新御堂筋の老人ホームは今年5月に開発者が正式に申請取り下げ）

〔新たな規制の導入へ〕

さらに、こうした山なみの緑・景観を阻害する開発が、今後、繰り返されないよう、みどり豊かな山すそエリアについて、新たに強力な開発規制の導入を準備中のこと。安心して消えることのない山なみを眺め続けていられる…そんな箕面になることを期待します。



〔守るだけでなく、みどりを育てたい〕

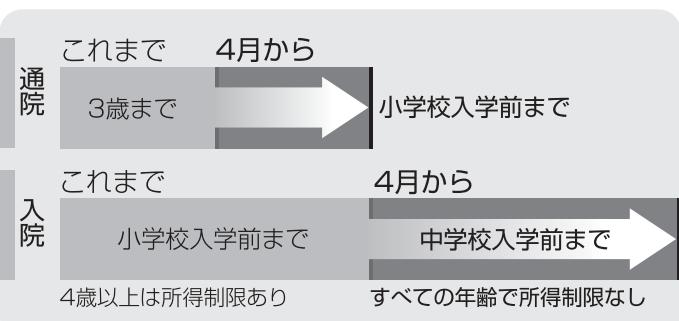
これまで、山間・山麓部には“山麓保全ファンド”がありました。これに加えて、新たに“街の中の緑”を育てるため、住宅地を彩る樹木や生け垣、地産地消のもととなる農地などを支援する「(仮称)みどりファンド」の創設準備がスタートしています。

子育てしやすさ日本一へ



子どもの医療費助成を大幅に拡大

「子育てしやすさ日本一」をめざす倉田哲郎市長は、今年の4月から、子どもの医療費助成の大幅拡大に踏み切りました。



通院、入院ともに1日あたり500円、3日以上受診した場合でも、1つの医療機関であれば月のご負担は1,000円まで。また、複数の医療機関を受診しても月のご負担は2,500円までOK。いざというとき、保護者の皆さんは安心です！

さらに、生後4ヶ月までのすべての赤ちゃんを訪問する「赤ちゃん・子どもすこやか事業」の創設や、全中学校のすべての普通教室にエアコン設置など、子育て日本一をめざして数々の取り組みを行っています。

中学校にデリバリー給食

箕面市の中学校は“弁当持参”となっていますが、「作りたくても作る余裕がない…」そんな悩みも聞こえてきます。そんな保護者の方に朗報。

今年の2学期から、中学校のデリバリーランチ（予約制のお弁当）導入の準備が進んでいるとのこと。しかも市内の企業などの協力による、とくに安全で栄養バランスのとれたお弁当です。いろんな方の力も借りて、財政支出を抑えつつも、新たな発想で次々とニーズに応えたい…そんな倉田哲郎市長の気持ちがカタチになっていきます。

困ったことは見逃さない!
すぐに実行!

本気でカラスを駆逐! 「カラス対策チーム」が始動！

カラス被害が広がりを見せていました。桜井の話とばかり思っていたら、最近はうちの近所でも…。倉田哲郎市長は、専門的な「動物対策チーム」を発足させ、「なにがなんでも一掃する！」と対策に乗り出しました。とくに重点地区では、生ごみ対策やトラップ（檻）による捕獲、巣の撤去などあらゆる手段を講じる構え。街で「動物対策チーム」というジャンバーを見かけたら、ぜひ応援を！ また東京都荒川区で先例のある《迷惑行為の防止条例》も検討しているとのことです。

箕面ならではの
スローライフを

「農業サポーター」の募集が はじめました！

“土イジリ”に興味がある方、農業やってみたい方、自然とふれあいたい方、みんなで箕面の農家を応援しませんか？

大阪には珍しく、せっかく田んぼや畠のある“箕面”的風景。でも、農家は高齢化や後継者不足に悩み、農地は減少の一途をたどるマイナスの循環に陥っています。これを逆転させ、「農業」を切り立たせ、「地産地消」を進め、箕面らしいスローライフを謳歌する…。そんなビジョンを描いて、市は、農業に関心のある市民と農業者を仲介する「農業サポーター制度」をスタートしました。

眺めるだけでなく、実際に畠に入って、汗を流して“地産地消”してみませんか？ ぜひ、農業サポーターにご応募ください！